

【まちの方向性について】

町の方向性

- 海外からの移住者を増やす。
- 今後、コンパクトシティ・身の丈のまちづくりが必要である。
- 美里として何をやるか戦略の柱を立てる。例 世界で一番住みやすいまち
- 外貨を稼ぐことが必要。

地産地消

- ポイント制を導入し、町内でお金が循環するようにする。
- 地産地消を実現するために、買い物や福祉等に渡る地域総合ポイント制を導入する。

エネルギーの自立

- 自然エネルギーの自給自足をしている岩手県葛巻町の取り組みが良い事例である。

働く場

- 町内に働く場が欲しい。
- 会津全体で創出することが必要である。
- 仕事して生活できれば町は成立する。
- 企業誘致は現実的でないので、町内の企業が雇用を創出する。
- 商店街の魅力づくりが必要である。といっても、新鶴の人は高田に行かない。
- いろいろな人が会津美里町に来るようにしないとイケない。
- 農業等働く場をつくる。
- 町民自らの起業を促す。

ブランド化

- 林業等町のブランド化が必要である。

農業の活用

- 低コストな米づくりを町が引っ張り、外部の知恵を入れて、技術開発し、高齢者を活用する等して、米1俵1万円を実現する。
- 健康づくりの一環として、高齢者が田んぼの草刈りをすれば、生産コストの削減につながって良い。
- 美里でできることをやる。
- 農業は、生産から販売まで自分でやればよい。

ワイン

- 町内でやっているぶどう作りを残すために、ワインを作りたい。
- 町外から人材を集めて海外に通用するワインを作る。海外コンクール入賞を目指す。

アイデア、情報や交流が重要

- 国際交流→人材交流→情報交流と広げる。
- 外部から人材を呼び込む。
- 海外から来る人の受け入れ体制をつくる等支援（行政）が必要である。
- アイデアがない。特に行政。
- 賞金1億円の活性化アイデアコンペを実施し、町民のアイデアや知恵が湧き出るようにする。

【テーマ設定にあたって（全体での討議）】

- 分野別の6つのテーマでは前回の繰り返しであり、各テーマでなく、町全体の方向性を議論すべきである。
- 第二次総合計画の「笑顔あふれる未来へ」では、具体的に何をすべきか誰もわからなかった。
- 町の方向性についてのワークショップでの意見と、議会等での意見をまとめて、最終的に検討すれば良い。
- 町の現況をまず勉強すべきであり、全体の方向性はまだ議論できないのではないか。合併後、3地域の一体感もまだ生まれていない。

→意見を受けて、人口問題を含め全体の方向性を検討するグループと、それぞれのテーマについて検討するグループを設けてワークショップを実施した。なお、人数の都合上、農林業は観光・産業のグループと一つとした。

【まちの魅力づくり】

観光のテーマを絞る

- 観光のテーマを検討すべきである。例えば、会津若松は侍、伊賀では忍者が人気である。
- 会津若松には外国人観光客は少ないが、会津若松の観光客を美里にもひっぱりたい。
- 伊佐須美神社や中田観音、本郷焼の体験、農業体験等、観光の資源はいろいろある。特に体験観光に力を入れたい。

新鶴一带を観光地としてPR

- 新鶴のぶどうは、今年は豊作すぎて全量は買い取ってもらえなかった。独自に販売等できるとよい。
- 新鶴は眺めも良い。例えばワイナリーを作り、一带を観光地としてPRしてはどうか。

焼き物・人材育成

- 最近登り窯をつくった。焼物体験をPRしたい。
- 宗像窯の登り窯も珍しい。
- かつては、会津工業高校の分校が本郷にあった。
- 以前、焼き物の人材を育てるため、家賃補助を組合と連携して行っていたが、再開できないか。
- 茨城県では窯業の指導所で若者を育てており、県立窯業大学に格上げを検討している。
- 焼き物を活用して人を呼び込むための検討ワークショップを以前も行っていたが、途中で頓挫してしまった。

特産品アイデア

- 角館では、桜の皮を使ったブローチ等を作っており、人気である。

宮川の桜

- 宮川の1000本桜をPRしたい。女優の撮影会等で、話題づくりできないか。
- 桜は河川敷にあり、植え替えの許可を取るは必要だが、植え替えは可能である。

地域で管理を

- 道路、植栽の管理を地元で行う例は各地にある。
- 美里自然学校では、桜の管理についての提案を行っている。

町並み整備

- 本郷の町並みをアピールできる。
- 瀬戸町通りは、車が少なく人が通りやすい。
- 本郷地域の裏通りは、散策に向いている。
- まち中を散策しながら、焼き物のPRを。陶片を塀に埋めてはどうか。
- ブロック塀のデザインを統一してはどうか。
- ブロック舗装等、道路を地域の人でつくれないか。
- 若松の七日町通りは、魚問屋を改装してホテルにしている。大正ロマンの雰囲気人気である。

電線地中化

- 電線を地中化したい。福島県では、三春町が先進的である。
- 小布施も電線を地中化していて良い。

まちなか整備について

- 高田の横町通りの水路は危ない。
- 公共施設は人集めに配慮した立地決めが必要。幼保一体施設は遠い。

【まちづくりの取り組みの推進】

人集め

- 行政だけ取り組むのでは難しい
- 個々にアイデアを考えている人はいる。本気で取り組む人が集まる必要がある。
- リーダーシップが必要

取り組みの継続を

- このワークショップの検討結果はどこに生きるのか。今までも住民ワークショップはあったが、結果発表の場がなかった。
- 行政も継続的に後押しして欲しい。
- ワークショップの議論を継続的にやりたい。
- 角館や川越、金沢市等、観光で成功している地域は、たとえ首長が変わっても、変わらないビジョンを持っている。ビジョンと、継続して予算をつけることが必要である。
- 取り組みが実施後、ふりかえりのワークショップが必要である。
- 地域で検証委員会を実施してはどうか。

まちなみ協議会

- まち並み協議会がかつてあり、自主協定をつくった。看板は赤色NG、ブロック塀は生け垣に、等。
- 協議会を復活できないか。
- 以前の協議会は、行政の人事異動等もあり、現在は活動していない。

【集中的に検討した項目】

高齢者福祉

- 高齢者福祉の充実
- 高齢者の居場所づくり (さまざまな問題の解決策になる)

- ・ 高齢者の集会所の充実 (集落単位の)

目的：見守りの場に

子育ての場にもなる

家庭のある人が安心して暮らせる

引きこもり対策



- ・ 行政が指導し空き家を集会所として利活用
- ・ 町の健康教室の開催 (医療費の削減)

● 孤独死の早期発見

- ・ アイネットの普及
- ・ 宅配サービスを利用した孤独死の防止
- ・ 老人クラブの助成・育成

● 交通手段の確保

- ・ あいあいタクシーを町外まで走らせる。

高齢者の生きがいがづくり

- 老人クラブの魅力ある活動
- 引きこもりの社会活動への参加、啓蒙
- 日本文化の継承
- 高齢者の雇用促進
  - ・ シルバー登録を増やす。
- ・ 介護施設のサポート
- ・ 共同作業
- ・ 農作業手伝い
- ・ 新規参入者の支援

地域ネットワーク

- 近助・自主防災意識
- 訪問介護・診療の充実
- コンパクトシティ化、連携の強化
- 子供を育み、育てることができる。
- 相互に助け合う介護
- 異世代間交流
- 余計なおせっかいで引きこもりを防ぐ。

【その他の意見】

健康づくり

- 町民の健康を保つ
- 運動教室充実
- 健康づくりアドバイザー助言
- ラジオ体操の見直し 幼→老 共に

施設の充実

- 健康文化センターの建設
- 資金不足が問題
- 町営温水プール設置 (体力づくり)

障害者福祉

- 障害者が自立して暮らせる町
- 障害者の教育施設の充実
- 授産施設 (町営) の導入
- 共同作業所 (希来里、ピーターパン)

【子育て（母育ても含んだ）や人育てを考える上で、大切にしたいこと】

めざすところ (vision) を持ち、そのためにできることを考える。

【めざすところ】

- 子育ての質が求められていく時代に、魅力的な美里らしい子育ての確立
- 独自の子育て環境があれば、美里で子育てがしたい！と、他からも人が来る。

【できること① 美里の魅力を活かした子育てを考える】

- 大自然活用エリアとまちなかエリアにエリア分けして考える。
- レストランやコンビニを近くに置き、便利さも兼ね備えつつも、美里の自然や農作業を楽しめる環境をつくる。
- まず一ヶ所、候補地をみつけて、とにかくやってみる。

大自然エリアを活かす

- 森を拓く...動物・林業とも結びつけたふれ合い体験・学習
- 野遊び
- アスレチック
- カニ捕り、魚捕り
- 川遊び
- いろり山（里山を活用した先例：個人が実践）みたいな遊び場？を町や集団で運営
- 明神岳から滑りおりるすべり台（これぐらい思い切った案でないと、人が来ない）
- 雑木林を拓いて、そこに小川もあって、自由に遊べる。

まちなかエリアを活かす

- 共同農地での手仕事・食育  
楽しんで労働  
自分の手を動かす楽しみ  
(いなごとり、山菜とり、おかしづくり、おやつづくり、いなごの佃煮づくり)
- 特産品、加工品開発につなげる。

【できること② 美里の魅力を活かした環境づくりを考える】

「まずは夢から語ろう！ドリームタウン美里」

- 伝統文化を学ぶことで、精神的なものを身につけられるまち
- 遊休農地を借り上げて開墾 お金かせぎつつ若い人を呼び込む
- 畑付きの家を利用、分譲
- 空き家ー大きな農家  
大きな畑付きに移住  
セカンドハウスとして利用してもらうとか
- 山際エリアは今お年寄り多い。このエリアを活性化していくと熊対策や過疎化の対象にもなっていく。
- そこに住むと豊かな暮らしができる事を魅力にした町づくり。
- 自然活用特区として、花・緑・土・水で人を呼ぶ。  
→博士山の水おいしい！アトピー治った人も！  
→菜の畑迷路（任意団体主催ですすでに実績あり）、（耕作放棄地利用）、（なたね油・エゴマ油）
- 子どもの頃の風景が豊かだと、大人になってもその風景に愛着を持ち続け、再現したくなる。  
→れんげ草（肥料にもなる）が美しかった美里町が忘れられない。  
→いまの菜の花が美しい美里町  
→道を花で魅せよう。  
→住みたくなるまちの風景  
→まちをきれいにしたいという心を育てる。
- どこにもない自慢できるまちづくり。
- 出会いの場をどうやって増やそうか。（結婚相手をさがす）  
→歌声喫茶
- 子育て世代に家賃補助 はじめはただでも  
→長く住むほど利益が有る制度をつくる。 一年住んだら何ポイントとか 一年住んだらお米とかとPRする。

伝統文化を活かす

- 会津藩の頃からの教え(華道、茶道、剣道、書道、なぎなた、剣舞、作法等)にスキーを加えて、美里ではこれらの技術の免許が全てとれるよ！小学校、中学校、高校でとれる段階が違うから、進学していく内にどれも自然に身につけられるよ！とPRする。

【森林保護（森の大切さ）】

地場産材の利用

- 木質ペレット(工場)
- 新庁舎でペレットストーブの使用を！  
県産材の活用を！
- 天然木 木製品

ブナ林（水資源）などの保護

- 動植物の保護
- 土砂災害、土石流などの防止

防災

- 避難場所にどのように行くか
- 自主防災組織の普及推進
- 町の防災マップで話し合う。
- 災害時の交通をどうするか
- 気候変動への対策（熱中症）



生命を守る！

【取り組みの課題について】

- 財源はどこ？
- 森林組合等との連携が必要
- 木材の乾燥施設が必要
- 森林体験教室が必要